

## 第7回 江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会議事録

### ○日時

令和2年2月5日（水） 18:30～19:30

### ○場所

江別市立病院 2階 講義室

### ○委員

出席：西澤寛俊委員、寶金清博委員、野呂英行委員、樋口春美委員、野村裕之委員、  
後藤則史委員、森昭久委員、長野芳治委員、中田香委員、高田明委員、  
鈴木笑子委員

欠席：石井吉春委員、水野克也委員

### ○その他出席者

江別市：三好昇市長、後藤好人総務部長、佐藤貴史健康福祉部長、その他関係職員（総務部、健康福祉部）

市立病院：黒木純子看護部長、白石陽一郎事務長、千葉誠事務局次長、  
佐野之範管理課長、稲田征己医事課長、池田税病院情報システム課長、  
加茂経営改善担当参事、その他関係職員（医務局、看護部、診療技術部、事務局）

※富山光広院長は緊急手術対応のため欠席

### ○傍聴者

12名

### ○次第

1. 開会

2. 議事

(1) 答申

(2) 協議事項

①経営形態のあり方に関する事項について

②協議の進め方について

(3) その他

3. 閉会

<p>西澤委員長</p>	<p style="text-align: center;">—— 議事 ——</p> <p>本日の委員会は、はじめに答申書案の修正箇所等を確認し、答申書を確定させた後、答申を行います。</p> <p>その後、協議事項として、経営形態のあり方に関する事項や協議の進め方について意見交換を行いたいと考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議なし)</p>
<p>西澤委員長</p>	<p style="text-align: center;">—— 議事（１）答申 ——</p> <p>答申書の修正等について、説明願います。</p>
<p>管理課参事</p>	<p>(答申書案 説明)</p>
<p>西澤委員長</p>	<p>前回委員会の議論を踏まえた修正箇所について、他に修正事項や意見ありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>(意見なし)</p>
<p>西澤委員長</p>	<p>答申の前に、委員長として述べさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、委員各位には、心から御礼を申し上げます。昨年８月から半年という短い間に、全体会議７回、専門委員会３回と短期間に集中的に議論を重ね、答申がまとまったことは委員皆様のおかげだと思っています。</p> <p>また、院長、看護部長をはじめとして病院職員の方々には、私たち委員の役割とは言え、厳しい意見や質問をさせていただきましたことを、お許しいただきたいと思います。しかし、その意見を職員の方々께서しっかりと受け止めていただいたものと思います。今後の改革に対する職員の方々の覚悟というのを感じています。</p> <p>さらに、事務局には、議論に必要な膨大な資料提出を要求しましたが、迅速、的確に準備してもらったことで、市立病院の現状を具体的に判断し、踏み込んだ議論をすることができました。</p> <p>その結果として、実現可能性を考慮した、具体的な提案内容の答申書になったものと考えております。そして、答申の内容は江別市立病院に対するものでありますが、江別市の将来に対する想いも込められていると思っております。私たち専門家の意見のみならず、江別市民</p>

<p>三好市長</p>	<p>から選ばれた委員、さらには、熱心に傍聴に来ていただいた市民の皆様 の想いがこの答申書の中に込められていると、私は感じています。 ぜひ、この答申が実行されますことを願ひまして、委員会からの答申 を行いたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>(西澤委員長から江別市長へ答申書を手渡す)</p> <p>お礼を申し上げたいと思います。ただいま、西澤委員長からお話 がありましたとおり、昨年8月に市立病院の担うべき役割と診療体制、 経営の安定化、公的支援の水準の3つの事項に関する調査・審議に ついて、諮問をさせていただき、今ほど答申をいただきました。委員 の皆様には、委員会設置以来、専門委員会を設けての集中的な協議な ど、精力的にご審議いただき、本日の答申をまとめていただきました ことを、心から感謝申し上げます。</p> <p>委員会設置の際にも申し上げておりますが、江別市立病院は昭和2 6年に国立札幌病院診療所からの移管を受け、以来約70年間の歴史 の中で、数度にわたりまして経営危機に直面しています。昭和56年 には、国からの準用再建計画の指定を受けて4年間での再建を果しま した。その後、平成10年には病院を全面改築し、平成18年には救 急患者受け入れの負担増が一つの契機となって、内科医が全員退職し、 経営危機に陥りました。現在は、総合内科指導医師の退職がひとつの 契機となり、総合内科医の退職が相次いで経営危機に陥っている状況 であります。</p> <p>このような状況を懸念する市民の皆様、議会からの指摘を受けまし て、昨年8月に本委員会を設置し、審議していただく形になったとこ ろであります。今回、審議をお願いした市の想いといたしましては、 市民に対し市立病院が必要な医療を提供し、再び経営危機を繰り返す ことのないように、市立病院の再建をしたいという一心であります。</p> <p>この度いただいた答申は、市立病院の担うべき医療とそのための診 療体制、人員配置の適正化、ガバナンスの強化など、構造的な課題に も具体的な対応を求める提言となっているものと認識しております。</p> <p>市立病院では、これまでの委員会の検討経過の中で指摘いただいた、 地域包括ケア病棟の利用率向上のための施策等について、できる ところから進めようということで、直ちに取り入れて、効果が上が っているという状況も見え始めたところでもあります。</p> <p>私といたしましては、院長はじめ病院職員と連携し、市職員が一丸</p>
-------------	--

西澤委員長	<p>となって、市民の皆様理解と協力をいただきながら、提言に基づき、医師招聘の体制強化、人員配置の適正化などを、3年間の集中改革期間の中で、着実に実施して、経営再建を実現していきたいと考えております。</p> <p>なお、経営形態のあり方に関しましては、継続しての協議と伺っております。そのことにもまた、ご迷惑をおかけしますけれども、よろしく願いいたします。</p> <p>最後になりますが、西澤委員長をはじめ、委員の皆様には、短い期間で精力的・集中的にご審議を賜り、本日の答申をいただきましたことを重ねて御礼申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、引き続き、議事を進行します。</p>
西澤委員長	<p>——— 議事（2）協議事項 ① ———</p> <p>協議事項の①経営形態のあり方に関する事項について、説明願います。</p>
管理課参事	<p>（資料 P 2～P 4 経営形態の類型整理 説明）  （資料 P 5～P 10 経営形態別の比較 説明）  （資料 P 11～P 13 経営形態見直しに係る費用試算 説明）</p>
西澤委員長	<p>ただいまの説明について、意見ありますか。</p>
高田委員	<p>資料P6に、地方公営企業と地方独立行政法人との比較の表に、「独立採算原則あり」と記載されていますが、これは政策医療に対する資金は合理的だが、その中で独立採算するとの意味だと思えます。そうすると、法律上、赤字が出ることは想定していないという認識で良いのか教えてください。</p> <p>2点目として、資料P7の全部適用について、「人事面で制度上独自の給与設定が可能」と記載されていますが、実態はどのようになっているのか、今後の議論資料として提示願います。</p> <p>3点目として、本日提出した答申書では“プロパー採用を進めるべき”という主旨の提言をしていますが、資料P9の経営形態別のデメリットに関する記載内容からは、全部適用ではプロパー採用が可能と</p>

<p>管理課参事</p>	<p>は読み取れないため、この点について確認したいです。</p> <p>4点目として、資料P9の地方独立行政法人の経理面の欄に、「誤り等が発生しやすい」と記載されていますが、なぜ誤りが発生しやすいのか、また、財政面の欄に記載されている監査コストはどのくらいなのか、分かる範囲で確認したいです。</p> <p>1点目、地方公営企業法上で赤字が想定されているかということですが、赤字となっている公営企業は現に存在していますので、法律上赤字が想定されているかといえば、想定されているものと理解しています。ただし、独立採算が原則ですので、赤字を出さないような運営に努めることを前提とし、法律上の趣旨として、原則が確認されているものと理解できます。従って、一定の政策医療への資金も考慮したうえで収支均衡が求められていると解釈できると思います。</p> <p>2点目、全部適用において、制度上、独自の給与設定が可能かということですが、給与規程は公営企業管理者が作ることとなりますので、制度上は独自設定が可能となります。しかしながら、現実的に独自に給与表を作成することは、技術的な困難性を伴うことが多く、制度上は可能であっても、国の給与体系に倣う等、独自には設定していないケースもあります。制度上、裁量の余地があるという理解で良いかと思えます。</p> <p>3点目、プロパー採用についてですが、定員管理を市職員として一体で行うということはありませんが、現状でも江別市立病院にはプロパー職員がいます。看護師をはじめとする医療職は、基本的にプロパー扱いです。また、事務職員も一部はプロパー職員となっています。答申書に盛り込まれたプロパー採用の推進に関しては、割合を高めていくことへの提言と考えています。</p> <p>なお、地方独立行政法人になれば全く別の法人格となり、法人の職員を採用するということになるので、より独自化されると理解できません。</p> <p>4点目、地方独立行政法人の経理面に誤りが発生しやすいということについては、一般的な分析として、地方独立行政法人に移行した場合は、会計基準が変わることになるので、運用の変更に伴って誤りが発生するリスクがあるという意味の記載です。一般的にこのように言われているということですので、準備することで乗り切れるものと理解できると思います。</p> <p>なお、外部監査のコストにつきましては、把握していません。</p>
--------------	---

西澤委員長	<p>全部適用で独自の給与体系が制度上可能ということですが、北海道内では全部適用を採用している公立病院が多いと聞いているので、道内の公立病院の状況について、可能であれば次回の委員会で提示願います。</p> <p>なお、監査コストですが、私の法人も対象となっており、収入からみるとかなりの高額コストがかかっています。このことも情報が揃えば議論が進むと思います。</p>
西澤委員長	他に意見ありますか。
委員	(意見なし)
西澤委員長	<p>資料にもあるとおり、専門家でないと、なかなか理解できないような内容だと思いますので、事務局には今後の議論に向けてわかりやすい資料を準備願います。</p> <p>続いて、今後、経営形態のあり方を検討するにあたり、委員会として何をすべきか、調査などをどのような形で行ったら良いか議論したいと思います。</p>
高田委員	<p>先進事例について、具体的なバックデータを含めて、複数用意願います。</p> <p>資料P13に、「経営形態の見直しの係る費用」として90億円と記載されていますが、この金額が用意できなければ地方独立行政法人化できないのかなど、この数字が意味することを分かりやすく提示願いたいと思います。</p> <p>また、地方独立行政法人化の認可に関わる根拠法令についても具体的な資料を用意願います。</p>
西澤委員長	<p>事務局には資料を準備願います。</p> <p>今後の検討にあたり、本日の資料にあるすべての経営形態を検討対象とするのか、あるいは全部適用、地方独立行政法人など候補を絞って検討するのか議論したいと思います。</p> <p>個人的には、時間の制約はありますが、最初から2つに絞る前に、実例を基にして対象を絞っていくべきと思います。</p> <p>ただし、民間譲渡はこれまでの議論には当てはまらないと思います</p>

	<p>ので除いて、その他の形態の実例に基づいて議論したいと思います。当然、選択肢として現行の一部適用のままということもあり得ますので、それらも含めて考えていきたいと思います。</p> <p>経営形態の今後の検討について、意見ありますか。</p>
後藤委員	<p>経営形態を検討するということは、経営危機に陥っている原因の一つには、現行の経営形態（一部適用）もあると思います。市立病院の状態を立て直すためには、どの経営形態にメリットがあるのかということか結びつかないと検討のしようがないと思いますので、それがわかるような先進事例を提示して貰いたいと思います。</p> <p>経営改善が上手くいった事例は、経営形態を変えたことだけが理由ではないと思いますので、江別に当てはまる事例を検討願います。</p>
西澤委員長	<p>うまくいっている例も環境が異なれば当てはまらないので、その通りと思います。</p> <p>また、答申の内容を取り組んでもらうことで経営は良くなると思いますが、国は公立病院ガイドラインというものを示しており、江別市立病院はこのままの存続もあるかもしれませんが、国全体で公立病院を改革するという波の中で、市民に必要な医療を提供するために経営形態を変えてでも病院を存続させる選択肢も考えられます。こうしたことも踏まえて議論していきたいと思います。</p> <p>官民を問わず、医師、看護師、その他職員が不足しており、医療提供体制の存続が懸念されています。地域医療構想にもつながりますが、地域の医療提供体制を含めた再編の中で、江別市立病院がどのように地域医療を守れるかを議論しなければならない時代が来ています。</p>
寶金副委員長	<p>直近ですと、江別とは状況がだいぶ異なりますが、広尾町国民健康保険病院の地方独立行政法人化を民間病院が入って実行した例が参考になると思います。</p> <p>他にも道内では、夕張市立病院の事例は指定管理者制度への移行があります。これは、江別にそのまま当てはまるかは分かりませんが、こうしたたたき台がなければ議論にならないと思います。せっかく3年間のビジョンがでたので、頑張って達成してもらいたいし、かなり踏み込んだ内容になっていますので、よい方向に向かうと思います。とはいえ、過去にも成功しなかった歴史もあるので、その辺も踏まえて議論を絞り込んでいきたいと思います。事例を挙げてもらえれば議</p>

	論は可能と思います。
西澤委員長	<p>今後の検討では、資料の準備だけでなく、場合によっては、ヒアリングや、現地視察も検討したいと思います。</p> <p>当委員会へオブザーバーの出席を求める場合は、公立病院の経営形態に関して詳しい学識者などを検討したいと思います。</p>
寶金副委員長	<p>独立行政法人への移行には、多額の資金が、結局最後に大きな問題となります。他の自治体でも、大きな赤字を抱えながら運営している公立病院は多くあるので、それらの規模感と経営形態を変更するにあたり、資金の問題をどうやって解消できたか、その辺のデータが見たいので、可能であれば資料を提示願います。</p>
西澤委員長	他に意見ありますか。
委員	(意見なし)
	——— 議事（２）協議事項 ② ———
西澤委員長	次に、協議事項の②協議の進め方について、説明願います。
管理課参事	(資料「協議の進め方（案）」説明)
西澤委員長	ただいまの説明について、質疑ありますか。
委員	(質疑なし)
	——— 議事（３）その他 ———
西澤委員長	その他について、ご意見ありますか。
委員	(意見なし)
西澤委員長	事務局から何かありますか。
管理課参事	<p>今後の日程につきましては、本日配布させていただいた日程調整表により別途調整し、各委員に案内します。</p> <p>なお、次回の専門委員会の予定は3月4日（水）18：00を予定</p>

西澤委員長	<p>しています。</p> <p>以上をもちまして、第7回江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会を終了します。</p> <p>19:30閉会</p>
-------	--